

フクタニユース

発行



(株)フクタニ

砕石部

今年も無災害で

年末年始無災害労働運動が終了しました。幸い人身に関する災害の発生はありませんでしたが、冷静に謙虚に胸に手を当てて考えてみると『危なかったな』という場面が思い浮かびます。



雪道道路のブレーキでやっとなと止まったこと。転倒者を二人目撃したこと。たまたま偶然ケガに至らなかつただけかも知れません。そう考えると、2ヶ月間の緑十字が完成しても心もとない。緑十字なのかも知れません。水面下には事故につながる危険因子がたくさん隠されています。危険因子を捕らえる感度を上げて、今年も一年無事故無災害で過ごせるよう頑張ります。

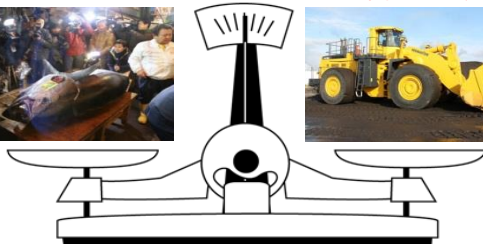
大間のマグロ

築地市場の初売りで222kgの大間産クロマグロが1億5,540万円で競り落とされた。御祝儀価格とはいえ、想像を絶する途方もない金額だと思ふ。砕石と比べるとはブランドマグロに失礼かもしれないが、クロマグロは1kgあたり70万円である。砕石は1kgあたり1円。クロマグロ1本で約10万㎡の砕石が買える勘定になってしまう。こんな素晴らしいことを考えているからデフレ脱却できないのだと自省しつつ、やっぱり1億5,540万円という値段に納得がいかないのである。

記録更新のマグロ様



マグロと同価格のホイールローダー



針の穴から宇宙をのぞく

学生時代最も嫌いで不得意な教科が『物理』だった。日常生活の中に『物理』が入り込む必要も余地もなかったのである。例えば、スーパーで『物理』が大変売りしていたとしても、買わなくても全く困ることはない。それを言い訳に『物理』は不要で不毛なものだと勝手に思い込み、悲惨な試験結果を見ては『物理』を恨んでいた。

今世の中では、『ILC』なるものの誘致に懸命である。かいつまんで言うと、トンネルの中に直線30kmの細長い超低温魔法瓶を作り、その中で電子と陽電子を高(光)速で衝突させ、できた素粒子を観測する施設である。その施設でできる(かもしれない)未知なる素粒子が宇宙開闢の謎を解明する手掛かりになるらしい。人間の知への欲求は宇宙より果てしないということか。それにしても岩手トンネルより長いトンネルができて一流の研究者が集まる町まで出来ることの経済的波及効果は絶大なものなのだろう。期待が高まるのも無理はない。『物理』バンザイ！



思い込み

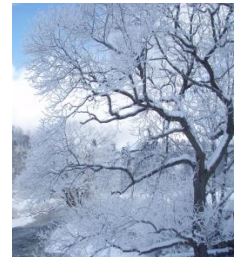


ある寒い朝。油圧ショベルのヒーターが全く効かない。水温は適正だしその他の警告表示もない。結局、原因は点検で閉じたバルブを開け忘れた為と判明。事無きを得たのであるが、この手のトラブルは日常の中に多い。パソコンが起動しないと思ったら、電源コードが外れていたとか、エンジンがかからないと思ったら燃料が無かったりとか、後で気が付くと笑い話になるような原因である。人間の脳は一端思考ルートを外れた所には中々戻ることが出来ないような気がする。そもそもパソコンは電気で、車は燃料で動くものだという事は当たり前過ぎて考えられない。経験を積んでベテランになるほど思い込みの弊害は大きいのではないかと思ふ。

1月点描

▼△▼さぶ～▼△▼

1月は寒かった。-15℃を下回る日が何日もあり、安比川沿いの木の枝にみごとな霧氷の花が咲



▼△▼踊る電線▼△▼

雪質によって電線にもかなり雪が積もることがある。お日様が昇り、気温も上り出すと電線は積もった雪を振り払うように揺れ始める。なぜだろう...

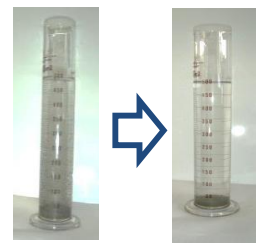


どなたかこの謎をわかる方はいらっしゃいませんか？



～ 短信 ～

砕砂プラント洗浄水に使用する凝集剤の試験をした。製品洗の浄後汚濁水にはμmレベルの微粒子が含まれているため放っておいても中々沈降せず、水は清澄とならない。そこで凝集剤を添加して見掛けの粒径を大きくして沈降速度を上げる。そうすることで上澄水を循環使用できるのである。今回ある会社から新商品のサンプルをいただいたのだが反応性は悪くない。コストがどうなるか検討してみたい。



編集後記

再建復興をとげた酔仙酒蔵の金野社長さんのお話を聞くことが出来ました。お酒は日本人が八百万の神々と付き合う重要なアイテムなのだとなりました。酒飲みの自己弁護として使えそう(笑)